DOYU IWATE

9 Sep.

2024 Vol.178

同友いわて

第18期人を生かす経営・経営指針実践塾発表会
～社員、家族に支えられ、感動に包まれた2日間～

よい会社をつくろう。よい経営者になろう。よい経営環境をつくろう。

岩手県中小企業家同友会 | http://www.iwate.doyu.jp/ |

県南支部訪問例会

「170年の伝統を熟練の技と〝熱鉄〟で伝える」

㈱及富　専務取締役　菊地 章 氏

文明を支え「鉄」を継承する職人集団「及富」訪問

6月26日（水）奥州市にある㈱及富にて、県南支部訪問例会が行われました。及富は1848年、現在の奥州市水沢羽田地区にて宝生堂として創業され、伊達家のお抱え釜師として活躍しました。170年以上の歴史を持つ及富は「文明を支える鉄を継承しこれからも残し生かす職人集団」として、古くから伝わる鉄器の魅力を伝えています。

専務取締役　菊池 章 氏

職人から伝わる気高い姿と繊細さに魅せられて

訪問例会当日は、月に数回行うという貴重な火入れ作業を見学させていただきました。1500℃の炎で溶かされた液状になった鉄は、まるで太陽のような明るさを放ち、そこから発せられる熱が工場全体に伝わります。マグマのように流れ出る鉄を容器に受け取り、慎重に運び砂型に注ぐ職人たちの姿はたくましく凛としていて圧巻で、見学している私たちも息をのむような緊張感が漂います。

2人同時に鉄を注ぐ作業は、呼吸を合わせるのに2年はかかるとのことです。砂型を作るのも体力も必要です。それには繊細さが求められ3年はかかるといいます。

30年の時を越え、海を越えて

今回ご説明していただいた菊地氏は1980年に㈱及富に入社します。1983年に当時26歳だった菊地専務がデザインした「スワローポット」は30年以上の時をこえ、日本のみでなく台湾とイタリアミラノ国際デザイン賞で受賞されました。

2年半のときを経て生まれた「ゴジラ」！

また、菊地氏は世界で初めて「南部鉄器」と「ゴジラ」のコラボレーション商品「南部鉄瓶ゴジラ」を生み出しました。従来の方法は通用せず何度も失敗を繰り返しましたが、「やらない後悔よりやって後悔したほうがいい」という意地もあったと話します。新技術を駆使し、自身の夢でもあったゴジラ鉄瓶は、2年半の年月を費やし完成しました。日本の伝統文化である岩手県の南部鉄器の新しいチャレンジとして後世まで語り継がれる作品です。

慎重に運び火入作業をする職人

熱き情熱で次の時代に繋ぐ

伝統を重んじつつ、革新的なものを取り入れ、誰もが手に取ってくれる南部鉄器を作っていきたいと熱き情熱を

秘めた菊地氏は話します。

最近では大谷選手もSNSで紹介した南部鉄器の魅力を改めて感じるとともに、伝統的な鋳物文化について触れることができた貴重な時間となりました。

参加された方々からは「岩手の南部鉄瓶を、岩手に住んでいながら初めて訪問し、職人の方々の、息のあった作品づくりを目の当たりにし、われわれももっとこれを伝えていかなければと思った。」「菊地専務の斬新なアイディアと伝統を大切にし、常に新しく革新を続けている姿に、感動した。革新を続けることは企業も同じだと改めて感じた。」などの感想がありました。伝統を革新の現場を肌で実感した県南支部6月企業訪問例会となりました。

第1回 障がい者・ダイバーシティ委員会準備会

「誰もが一人ひとり同じ人間である」ことを原点に

～障がい者・ダイバーシティについて考える委員会の発足へ～

障がい者だけではなく、働くことに困難を感じる方々が、誰もが働きやすい社会づくりを考える委員会づくりをめざした準備会が、8月21日（水）、ハイブリットで開催されました。

2014年に共に生きる部会として発足、昨年までダイバーシティ委員会として行ってきましたが、委員会の目的と取り組みについて再考しようと、この1年委員会を休止し準備を進めてきました。

今回はご自身がこれまで向き合ってきた障がい者雇用についてや、働くことに困難な環境においての方々にどのように接してきたのか、参加した8名のメンバーからその取り組みを中心にお話いただきました。

在日韓国人経営者の方からは、『決して心の障がい者になるなよ』とある方から言われ、ご自身で日本との二つの文化の融合をすることを自分の人生の使命と感じ経営をしてきた。重度の知的障がい者など最大で10名雇用していた時期もあったが、多くが学ばせてもらうのは私たちのほうで、何が厳しさで何が優しさか、向き合うほどに深く考えさせられることばかりだった。」という話や、最近は障がい者の企業での就職を躊躇する学校や施設も増えてきた、という話題も出されました。

トラブルや先の見通しを考慮しすぎて、先回りして周囲が回避してしまうこうした事例は、むしろ気づかいをするあまり、公平を保つ目的が反対に選択の不平等を生んでしまっているのではないか、との議論にもなりました。

ほかにも沢山の実例が出されましたが、あくまでも「誰もが一人ひとり同じ人間である」ことを原点に一緒に考えていくこと、話し合っていくことをまずは第一に考えていく委員会にしていくことを決定し第一回目を終了しました。今後3ヶ月継続して準備会を進めていく予定です。

中同協 第56回定時総会in宮城

創ろう豊かな未来を、育てよう21世紀型企業を同友会運動のあたらしいステージへ

7月4（木）～5日（金）、「創ろう豊かな未来を、育てよう21世紀型企業を」をスローガンに、中同協第56回定時総会が宮城県仙台市の仙台国際センターで開催され、全国47同友会と中同協から1099名が参加されました。

岩手同友会からも、25名が参加し学んだ2日間でした。

今回、参加した方々からの各分科会に参加し、それぞれの学びの感想をいただきましたので一部抜粋させていただきご紹介いたします。

1日目全大会

◇全体感想

今回の総会では「21世紀型企業」の重要性を再認識しました。言葉は知っていても内容を深める心の余裕がなかったということもあり、2日間で漸く掴めたような気がします。

第1に自社の存在意義と社会的使命感で地域社会の期待に高い水準で応えられる企業である。第2に社員の創意・自主性が発揮できる社風と理念が確立された企業（人間集団）であるとこをしっかり受け止める機会になりました。

㈱高田自動車学校
取締役会長
田村　滿氏

総会実行委員長の中針氏

◇分科会感想

■第1分科会
「21世紀型企業づくりで同友会運動の新しいステージへ」
～自主・民主・連帯の精神が世界を変える～

報告者　㈱ヒロハマ
取締役会長　広浜　泰久氏
（中同協会長）

第1分科会に参加して広浜会長の報告をお聞きして、21世紀型企業づくりを通してすべての人がその素晴らしさを発揮できる社会をつくる為に学んだことをいつ実行し実践していくかと、お客様が本当に望んでいることをすべて書き出しスケジュール帳に記載しているそうです。また、人が育ち主体性を発揮できる環境をつくる為に、仕事、評価、給料、教育に関して社員と話し合い具体化、細分化して社員の言葉に耳を傾ける。フィードバックを繰り返し、社員が口に出さない1％の不満も解決できるよう職能資格の明確化、人事評価との連携を進めてきたこと等の数々の実践は、改めて自分に置き換えて考えると本当に難しさを感じました。また、「缶」の社会貢献で全面的に支援すると掲げた時に、2代目として義務感の苦しさがあったが、人が喜ぶことを社会組織で効率よく分業し、目を輝かせる社員をもっと増やす、この2つを目的にしたことによって、一切の後ろめたさがなくなり屈託なく突き進むことが出来たというお話には、とても共感しました。今回本当に学び多い分科会でした。

杜陵テクノ㈱
代表取締役　川村　武司氏

自社自体が今年総会テーマの「21世紀型の企業」にどれくらい近づいているか？

①自社の存在意義、社会的使命感、国民・地域社会からの信頼と期待 ②社員の創意と主体性、労使が育ち高まり合う、活力ある集団と改めて、「21世紀型企業」を考えた場合に、一つでも実践ができているか？次なる新たなステージが見えていて、進んでいるか？これを問われている気がしました。そして「自社が地域のインフラ会社としての、社会使命感を持たなければならないのは当社だ」と思えるくらいにならなければと報告を聞いて考えることができました。しかし、自分一人だけでは、会社はもちろん、社会は動かないし、前に進まないと思います。いかにして周りに伝えていくかが更に問われると感じています。次なるステージに行けるようにしっかり学んでいきたいと思いました。

第1分科会の様子

紫波環境㈱
代表取締役　瀬川　峰雄氏

■第5分科会
「地域に人を残し、地域全体で人が育つ運動を展開する」～
～自社の採用活動と共同求人運動は一致していますか？～

報告者　㈱ヴィクルー
代表取締役　佐藤　全氏
（宮城同友会）

東北文化大学
キャリアサーポートセンター
副センター長　佐々木　充氏

今回の分科会を通じて、地域で若者をのこすためには地元企業の積極的な関与が不可欠であることを再認識しました。キャリア教育やインターンシップの推進、出前講座などの取り組みを通じて、学生たちに地域で働く魅力を伝えることが重要です。また、地域企業と教育機関との連携を強化し、若者が地元で活躍できる環境を整えることが、地域の持続可能な発展につながると感じました。また、そのような活動が社員教育につながり、自社がより良い会社となるための成長につながるという事を学びました。

会場いっぱいの分科会

㈱盛高商店
代表取締役　工藤　尚氏

■第8分科会
「時代変化対応のカギは企業連携だった！」
～本業を深め、広げ、新しい価値を生み出そう～

報告者　（株）鳥越樹脂工業
代表取締役　鳥越　豊氏
（愛知同友会）

今回初めて『ものづくり』の企業の分科会に参加させていただきました。報告者の鳥越氏とは同じテーブルでグループ討論でも色々とお話させていただきとてもいい学びでした。鳥越樹脂工業の企業理念は「夢努夢」（いどむ）です。何があっても諦めないで「開発型」と「見込型」と融合させ100年企業を目指す。という理念はとても素敵な理念だと思いました。

大懇親会で宮城の「食」を堪能

グループ討論では「同友会同志の企業連携」「中小企業と行政、学校は地域から逃げられない！」討論の中で心に響きました。明日から弊社も常に新しいことに取り組んでいく姿勢を忘れず、フロントランナー型企業を目指します！

㈱杜陵工業
代表取締役　瓜谷　昌子氏

■第11分科会
「企業づくりと地域づくりを一体として」
～地域建設企業ができる地域活性化～

報告者　藤田建設工業㈱
取締役会長　藤田　光夫氏
（福島同友会）

報告をお聞きし、まさしく企業づくりから、地域づくりに繋がっていったということがよくわかる報告でした。最初は、本業に近いグループ会社でしたが、だんだん地域課題から自社で取り組めるものになっていき森林づくりですべてに繋がっていったように思えました。自社だけでは、そこまでいかないとしても地域の同友会メンバーでやれることもあるのではないか、そのためにも条例をもとにしたこの地域をまちを県をどうしていきたいかというビジョンを考えて行動していけたら、共通課題にむけて連携できるのではないかと思いました。

㈲いわてにっか
コミュニティ企画
代表取締役　吉田　ひさ子氏

昨年のこの時期、まさか一年後に自分がこの総会に参加しているとは夢にも思わなかったというのが一番の感想です。自分は昨年経営指針実践塾を受講したばかりという事も重なり、何もかもが新鮮で驚くことばかりでした。報告者の藤田氏の報告を受けて『地域活性化』についてグループ討論をしました。その中で様々な意見が出ました。特に印象的だったのが「我々が経営指針を基に10年、20年先のビジョンを描いているが、中小企業だけでなく、各自治体や地域のこどもたちと一緒に夢やビジョンを描く努力をしないと、ますます地方が消滅してしまう」という意見がありました。それを聞いてわが社も地域づくりを担っている一員として、今後必ず実践しなければならない事だと気付かせていただきました。

住田住宅産業㈱
代表取締役　中野　和人氏

2日目、1,000人大グループ討論

支部・地区通信
★7・8月も「暑い」中「熱く」活動!!

岩手リアス支部

基本を徹底し現場で語る経営

6月20日（木）岩手リアス支部6月例会が陸前高田コミュニティホールで行われました。「基本を徹底し現場で語る経営が会社を変える」をテーマに、㈱タイム缶詰　代表取締役　吉田和生氏にお話をしていただきました。

三陸の地元の食材を中心にした商品を製造

1990年に「大地を守る会」に30歳で入社した吉田氏は長い間仕入れ担当として全国の生産者との関係を大事にしてきました。さらに以前から縁のあった陸前高田の缶詰工場「タイム缶詰」で次期社長として働き始めます。

㈱タイム缶詰は三陸を中心とした国産原料、調味料は無添加、醤油と味噌は地元陸前高田の八木澤商店を使用するなど、こだわりを持って缶詰や煮魚などを製造しています。手作業による見た目もきれいな菊詰めはメディアにも取り上げられ、ふるさと納税でも売り上げを伸ばし、地域ブランド商品として水煮缶のほか、様々な商品を展開していきます。

その結果自社商品の価値がわかる顧客を見極めた戦略の効果もあり、たった3年で赤字続きだった会社の大幅な黒字化を実現しました。

社員に誇りをもって働いてもらうために

吉田氏は経営の基本を徹底するため、全社員に情報を開示し会社の状況を知ってもらうことから始めました。さらに社員に自社商品の価値を知ってもらい、誇りをもって働いてもらうため、自社商品を皆で試食するなど、一つ一つ丁寧に積み重ねていきました。

すべてはタイム缶詰のための30年

自分の今まで30年間培ってきた経験は今のタイム缶詰にすべて生かされている、この30年間はタイム缶詰のためにあったと話します。

今回の例会の座長を務めた田村滿氏は、「経営の基本を徹底し、社員に誇りをもって働いてもらう会社を作り上げた吉田氏と、今後は自分の地域を共に盛り上げ、次世代の経営者への希望のかけはしになれば」と熱い思いを共有できる例会となりました。

盛岡支部

7月26日（金）盛岡市中央公民館において盛岡支部7月例会が開催されました。

報告者は東日本機電開発㈱代表取締役 水戸谷剛氏より「社会的共通資本の充実を目指し、地域になくてはならないアテにされる企業の取組」というテーマでご報告いただきました。

北東北3県をベースに展開

同社は1971年に穀物加工プラントの制御盤製造で創業されました。機電事業、環境事業があり、特に機電事業は、北東北3県（秋田、青森、岩手）全市町村に東日本機電開発の製品が入っています。平成15年には先代の社長（現会長）が初めた農業事業で鶏糞をベースとした特殊肥料また、岩手県農業研究センターと共同開発した、いちごの高設栽培、国際リニアコライダー関連事業、最近ではもみ殻ボイラーによる循環システムなどの新事業開拓にも取り組んでいます。

地域に住む人の社会を安定して維持するための住みよい環境づくり

経営理念は「社会的共通資本の充実に貢献し、住み良い環境づくりを目指します」と掲げています。「社会的共通資本」とは、経済学者・宇沢弘文氏が提唱した概念で、地域に住むすべての人が豊かな経済的・文化的生活を営み、人間的に魅力のある社会を安定して維持することを可能にする社会的装置という意味があります。水戸谷氏は

「経営指針の中では理念・経営方針・経営計画・10年ビジョンが大切になりますが、その中でわれわれ経営者は『環境の変化をどうとらえているのか』、ビジョンの実現として『何のために経営しているか、誰と実現するのか、何を変え、何を守るのか』をしっかり考えそこに魂をこめることで、全社一丸経営の実現になる。このことは同友会の学びから得たことです。」とこれまでの実践をご報告いただきました。

「何のために」をブレずに全社一丸の経営をめざす

感想として「環境は変化するがお客様の求めていることや、事業定義を明確にし、何のためにをブレずに全社一丸の経営を目指していきたい。」「経営理念と自社の現状認識をいかに埋めるかを課題とし、どう向き合うかを考えた例会でした。」などの感想がよせられました。自社の経営理念を再度考え、次の実践につなげるヒントをいただいた例会になりました。

県央支部

紫波矢巾地区7月訪問例会

7月22日（月）県央支部紫波矢巾地区7月訪問例会が、矢巾町の社会保険労務士法人ワイズコンサルタンツ内に新しく開設した「ワイズライブラリー」で開催しました。

中小企業にあった組織づくりのプロに！

東京都生まれの山本氏は練馬区役所の社会福祉法人に8年間勤務後、特別養護老人ホームの立ち上げを経験しました。その後法人本部で従業員約700名の人事、総務、会計に従事し、小さな施設から大きな施設までの運営ノウハウを吸収しました。在職中に中小企業に合った組織づくりできるプロのコンサルタントになる事を決意して社会保険労務士を志しました。

母からの激励「日本一になって来なさい！」

2年間、猛勉強の結果、合格率6％の難関を突破し見事合格し、選んだ新たなステージは妻の出身の岩手県。その右も左もわからない盛岡の社会保険労務士事務所でスタートしました。東京を出る際母親に東北で1番になって来ると言うと「何小さいこと言ってるの！日本一になって来なさい」と言われ目標が物凄く大きな物になりました。

県内最大の事務所へ大きく成長

たくさんの本が並ぶワイズライブラリー

数年修行しワイズコンサルタントを開業します。開業当時は小さい事務所でしたが、のちに現在の事務所に移転しました。その後、付加価値創造としての助成金の支援を経て事務所を県内最大へと成長させていきます。現在は12名雇用し230社と顧問契約をし、売上1億円まで成長しました。

山本氏は「ワイズよし、社長よし、社員よし」の考えで1人も不幸な人を出さない職場を目指しています。生産性を上げる為ブレーンストーミングをやり、出た意見に否定や結論を出さずアイディアを組み合わせて纏め1人当たり1時間に5,000円以上稼げるように工夫しています。社会保険労務士の年間売上1億以上は全国で3％程度、岩手ではワイズコンサルタンツのみです。「業界の情勢は厳しくなっていくといわれますが、これからも工夫をして独自の人材育成システムや定期的なセミナー開催や、新たに開設したYbrary（ワイブラリー）をで新しい試みを意欲的に進めていきたい」と語る山本氏のご報告でした。

（報告文　信幸プロテック㈱　村松　守）

第18期

人を生かす経営・経営指針実践塾 発表会

社員、家族に支えられ、感動に包まれた2日間

7ヶ月にわたる関わり合いが生んだ達成感

8月23日（金）、24日（土）の両日、第18期人を生かす経営・経営指針実践塾（以下「実践塾」）発表会が開催されました。23日はこれまで通り、アートホテル盛岡での開催でしたが、24日は陸前高田のキャピタルホテル1000へ移動し、沿岸で初めての発表会となりました。

今期の「実践塾」は、2月の経営基礎講座・計画策定講座からスタートしました。これまでは「何のために経営するのか」について徹底して問いかけ合い、自身の経営姿勢の確立を一番の目的に取り組んできましたが、今期から財務の基礎理解や新たな仕事づくり、付加価値の創造という、経営をする上で基本的なノウハウを理解し実践に生かせる内容をカリキュラムに加えました。

川村氏

渕上氏

更に成文化した経営指針の実践フォローの講座も開催を予定するなど、年間を通して学び合える環境を整えました。

一ヶ月に1回、金曜と土曜の二日連続で開催された講座では、毎回1ヶ月間準備し作成した経営理念やビジョン、方針を発表、検討を行います。7ヶ月の間で受講生9名に関わった実行委員はのべ50名を超え、毎週のように「補講」を行うグループも生まれました。

経営指針は作成してからが勝負

発表を前に主催の経営労働委員会　川村武司委員長は、「経営指針は作成してからが本当の勝負と言われています。これまでの7ヶ月、自分自身に向き合い、作り上げた経営指針。恐らく一生に一度と言われるくらい、様々な方々と関わり合い、語り合い、考え続けた、かけがえのない時間であったと思います。ただし、発表した今日が本当のスタートです。社員一人ひとりが主体になって動き始めるまで、何年もかかるかもしれません。でも諦めなければ必ず会社は変わっていきます。その一歩を歩み始められますこと、皆さんに心からお祝い申し上げます。」と挨拶し、発表のスタートとなりました。

この会社で働けることが幸せ

今回の発表では、ほとんどの受講生が幹部社員や家族が同席し、やり遂げた達成感を共有しました。

盛岡で発表した管工機材総合卸商社を営む㈱川藤　代表取締役　川村正太郎氏は、事業定義に「元気なふるさと創造業」と掲げました。専務始めチームリーダー4人が出席、社員からは「社長が会社の根幹となる経営理念、事業定義を明確に掲げくれた。その血肉となる個別方針、計画は、今度はわれわれが本気で取り組む番。私たちが中心になって社員を巻き込んでいく」と話があり、さながら社内の発表会のような雰囲気となりました。ある社員からは「この会社に入って、本当に幸せに思う。社長と出会えて良かった」との言葉もあり、会場の皆さんからは、「わが社もこんな会社になりたい」「私も一度でいいから言われてみたい」など、会場全体が沸いた時間となりました。

「社長の覚悟」への感動が会場全体を包む

陸前高田で発表した屋根板金業㈱フチガミ　代表取締役　渕上淳氏は、奥様、お母様始め、長年勤めた職人さんなど7名が出席。30代の若手後継者ながら、「自分についてきてほしい」と強いリーダーシップで語りかけました。

渕上氏は、大学卒業後、関東の企業で営業としてたたき上げ、当時地元大船渡には戻ろうとは思っていませんでした。しかしながらひょんなことから自分が後継することになり、「社長」としての意識が明確にならないまま、経営に就いてきました。社長としての覚悟を聞いた社員も家族も、途中から涙が止まりません。言葉にならない言葉に、会場全体が感動で包まれました。

9月6日、7日からは、初めての経営指針作成後のフォロー講座が始まります。「いよいよ今度は社員との実践」。発表後の皆さんの表情は、すでに次の一歩へ向かっています。

新会員紹介

支部地区	県北支部　岩手山麓地区
氏名	石頭　祐司
企業名	Saccora share　Global（株）
役職名	COO
住所	滝沢市砂込 911-4
TEL	019-681-3188
事業概要	裂き織の企画製造販売、ワークショップイベントの企画運営ツアーの企画運営

支部地区	岩手リアス支部　気仙地区
氏名	岩渕　城光
企業名	岩渕社会福祉士事務所
役職名	代表
住所	一関市大東町大原字西山 81-7
TEL	090-2028-592
FAX	0191-72-2753
事業概要	成年後見入の受注、公的サービスの業務請負、福祉相談、講師研修活動など

支部地区	岩手リアス支部　気仙地区
氏名	髙澤　公元
企業名	光照寺
役職名	副住職
住所	陸前高田市高田町字寒風 60
TEL	080-1808-6961
事業概要	社会教育活動

支部地区	岩手リアス支部　気仙地区
氏名	榊原　昌宏
企業名	（株）谷地保険事務所
役職名	代表取締役
住所	大船渡市大船渡町字地ノ森 48-1
TEL	0192-26-3000
FAX	0192-27-0850
事業概要	保険代理業

支部地区	岩手リアス支部　気仙地区
氏名	岡室　俊之
企業名	IT 経営相談所
役職名	代表
住所	大阪府大阪市西区北堀江 4-12-10-1218
TEL	06-6684-9854
FAX	06-6684-9828
事業概要	中小企業向け DX（IT・マーケッティング）の支援

新会員オリエンテーション・同友会を知る会

県北支部

悩みを語れる場づくりを支部が担う大切さ

7月30日（火）雫石町「Cafe Room」で県北支部新会員オリエンテーション・同友会を知る会が行われました。

今年度の第1回目は、岩手山麓地区が中心になり、ゲスト1名も加わり10名で昼食を取りながら和やかな雰囲気で始まりました。

支部幹事がそれぞれの経営体験を語る

最初に幹事の方々から、同友会に入会したきっかけや入会後どんな変化があったのかを、一人ひとりから話をしていただきました。「入会する前は、経営するために何をすればいいのか全く分からなかったが、入会後例会に参加し経営の悩みは誰にもある。ここは悩みを話し合える場だということが分かり例会に参加するようになった。まだまだ課題は尽きないが参加することで気づきがある。」「最初は自ら進んで参加した状況ではなかったが、全国の青年経営者全国交流会に参加し衝撃を受け同友会に対する考え方が変わるきっかけになった。」「困った時に相談できる場所であり、同友会がなければ今がないと思っている。」など体験報告をしていただきました。

盛り上がるミニグループ討論

それを聞いたゲストの方からは、創業から現在に至った経緯を話す上で、「仕事に対する熱量はあるが前に進もうとするとついていけない自分もいる。正直何をどうしたらいいのかわからない。」と本音の部分が出て来るなど、会場はミニグループ討論状態になりあっという間に終わりの時間を迎えました。

最後に岩手山麓地区会長の猿子氏（㈲猿子園芸 代表取締役）が今後会員になっていただきたいとの思いから、今回の場所を提供していただいたオーナーから一言お話をしていただき、「次回の地区会には参加したいと思います。」との言葉に会場は新たな仲間を迎え入れるような、新会員オリエンテーション・同友会を知る会になりました。今回は自社の課題を話せることで、次の一歩を踏み出せる場づくりの大切さを感じさせる時間となりました。今後も定期的に開催してかかわりを深めていく予定です。

素心知困

「その気になる」とはどういうことか、聞かれることがよくあります。▼岩手にも何度もお越しいただいた教育学者の故大田堯氏は、小学生の男の子から人間が二足歩行となった理由を聞かれ、「立つべくして立ったとしか言えない」と答えたと言います。果たしてその小学生は「そうか。人間はその気になったんだなー」と話したそうです。▼先日開催された経営指針実践塾の発表会でのこと。多くは社長の決意表明を述べたものでした。問題はその後です。数日経ってみると、明らかにその行動はふたてに分かれます。▼「財務のことが気になってしょうがない」「社員と早速勉強会の日取りを決めた」。経営者としての一度立ったそのアンテナは、もう錆びることはないでしょう。一方、常に理由が先に立つ方も多くあります。▼「経営者がその気になる」とは二足歩行を決意した時と同じほどに、人類の歴史を変えるほどの、重大な決意なのだと実感します。

オリジナルラベルワインを作成します
周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等
SHIWA 自園自醸ワイン 紫波
岩手県紫波町産ぶどう100%
社名ロゴ写真OK
包装、のし無料
12本以上作成料無料
お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301
自園自醸ワイン紫波醸造元 (株)紫波フルーツパーク
〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

めだか
有限会社いわてにっかコミュニティ企画
〔事業内容〕デイサービス／生活介護／訪問介護／住宅型有料老人ホーム
児童デイサービス／相談支援事業所／訪問看護／就労継続支援B型

節電は経費削減につながります！
オフィスの照明を見直し、経費削減を実現しませんか？
お客様のニーズに合わせたLEDソリューションをご提案します。
長寿命　消費電力カット　CO2削減　発熱が少ない
現場調査から取付工事まで、すべて平金商店へお任せ下さい！
LEDに入れ替えした場合のコストシミュレーションも可能です。
ぜひお気軽にご相談ください。
株式会社 平金商店　TEL:019-624-2121

物を大切にし環境にやさしくありたい　使わない人から使いたい人へ
総合リユースショップ　Doki-Doki　2nd STREET
(株)トータル・リユース
代表取締役社長　伊瀬 幸郎 ise yukiro
本社　〒026-0041　岩手県釜石市上中島町2-2-33
TEL:0193-21-2126　FAX:0193-21-2127
携帯　090-8780-3296
E-mail:trise@arion.ocn.ne.jp

Southern Iwate DSG サザン岩手ドライビングスクールグループ
Southern Iwate Driving School Group
陸前高田ドライビング・スクール RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL
三陸技能講習センター Sanriku skill training center
平泉ドライビング・スクール HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL
遠野ドライビング・スクール TOHNO DRIVING SCHOOL
携帯サイトはこちら
http://www.si-dsg.com/mobile

人と自然にやさしい環境を創り地域型企業として貢献します。
浄化槽　住宅設備のアフターサービス　水まわりのリフォーム　北上営業所
IWATE IKKA SERVICE
岩手日化サービス株式会社
〒020-0402 盛岡市黒川22-56
TEL 019-696-5611 FAX 696-5614

「企業変革支援プログラム ver2」

自社の立ち位置を明確にして社員とともに目指す企業像
「企業変革支援プログラムステップ1」、「企業変革支援プログラムステップ2」を1冊にまとめ、全面改訂
A4判、80ページ。
定価2,200円
（本体価格2,000円＋税）
2022年10月発行

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで真の循環型社会を目指します。
食用油　燃料化　精製　浄化槽保守点検　植物　BDFの製造・販売　紫波町　BDF燃料　光合成　CO2　エネルギー燃料
紫波環境株式会社
岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
TEL:019-672-2656　FAX:019-601-2686
http://shiwakankyo.com/
し尿・浄化槽汚泥収集運搬

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。■同友会ホームページをご活用下さい。www.iwate.doyu.jp ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。■本紙掲載事業への出欠返信は、同封のファックス返信用紙または e.duyu をご利用下さい。

DOYU IWATE 同友いわて 2024 Vol.178
2024年9月1日発行
発行／岩手県中小企業家同友会
広報委員会
〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-5 カガヤ肴町ビル3F
TEL019-626-4477 FAX019-626-1644
Mail：info@iwate.doyu.jp